



平成 29 年 3 月

米沢市文化財年報 No.29

米沢市教育委員会



▲大南遺跡で発見された堀に囲まれた中・近世期の掘立柱建物跡群（北から撮影）

おおみなみ
大南遺跡は、米沢市北東部の浅川地区に所在する縄文時代から江戸時代にかけての複合遺跡で、天王川右岸の自然堤防上に立地します。平成 30 年度から南側に隣接する浅川最終処分場の拡張工事が計画されており、工事前に遺跡の記録保存を目的とした緊急発掘調査を平成 28・29 年度の 2 ケ年で実施します。今年度は調査対象範囲約 28,000㎡のうち、東側約 14,000㎡の発掘調査を行いました。

調査の結果、奈良・平安時代の掘立柱建物跡群や、東西約 60 m、南北約 110 m の範囲を方形の堀で囲み、その中に掘立柱建物を配置した中・近世期の館跡と推定される遺構群が発見されました。遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、国産・中国産陶磁器類、石器・石製品、木製品類、金属製品など多様な遺物が出土しています。

平成 29 年度は主に調査対象範囲西側の発掘調査を予定しており、これらの成果は平成 30 年度に報告書を作成してまとめる予定です。

埋蔵文化財事業

今年度の埋蔵文化財に関する発掘届及び確認調査の依頼件数は、平成 29 年 2 月 28 日現在で 43 件、重要遺跡の保存目的調査 1 件、開発事業に伴う緊急発掘調査 3 件を含めると 47 件となりました。これらのうち、主な調査成果について紹介します。

【大南遺跡緊急発掘調査受託事業】

調査の概要は巻頭で詳述していますが、今年度の埋蔵文化財事業で非常に大きなウエイトを占めている事業です。発掘作業員約 50 名体制で、4 月 22 日から調査を開始し、雪の降るなか 12 月 9 日まで調査を行いました。遺跡の主体となる時代は、奈良・平安時代と中・近世とみられます。来年度もほぼ同様の規模・期間で発掘調査を実施します。



▲大南遺跡の調査風景

【戸塚山古墳群の調査(市内遺跡発掘調査事業)】

今年度は、小山支群 A 区 M199 号墳の測量と森合東支群の分布調査を実施しました。M199 号墳の測量では、山寄せ式の円墳であること、大型の石材が埋没していること、墳丘の周りを巡る溝状の落ち込みが存在することなどがわかりました。また、森合東支群の分布調査では、古墳と認定できるかは今後の検討課題ですが、塚状の土盛りが新たに 8 カ所確認されました。



▲ M199 号墳近景

【威徳寺東遺跡の緊急発掘調査】

威徳寺東遺跡は、集合住宅建設に伴って実施した分布調査により、平成 27 年度に新規に確認された遺跡です。今年度は、集合住宅建設部分を対象とした発掘調査を実施し、近世の溝跡や柱穴が確認されました。また、摺鉢や硯が出土したことから、当時の生活の様子を垣間見ることができました。



▲威徳寺東遺跡調査区全景

【野際遺跡の緊急発掘調査】

野際遺跡の発掘調査は、個人の住宅建設に伴って実施しました。以前行われた発掘調査で、縄文時代後期に特有な「瘤付土器」と呼ばれる特徴的な土器が見つっていますが、今回の調査でも同様の「瘤付土器」や土偶が出土しました。縄文時代後期の土器や土偶の出土例は本市ではあまり多くないため、大きな成果といえます。



▲野際遺跡出土土偶

今年度は大南遺跡の緊急発掘調査と、国指定史跡館山城跡の活用事業を中心に実施してきました。これらと並行して各種開発事業に伴う試掘調査等を実施しており、非常に多忙な 1 年となりました。このような中でも、今年度の事業にご協力を賜りました関係者の皆さまに御礼申し上げますとともに、今後も変わらぬ埋蔵文化財保護へのご理解とご協力をお願いいたします。

【館山城跡保存整備事業】

平成 28 年 3 月 1 日付けで館山城跡が国の史跡に指定されました。これを記念し、史跡の保存・活用を図るため、今年度は以下の事業を行いました。

国史跡指定記念展示と講演会

4 月 27 日から 9 月 27 日まで、伝国の杜のエントランスの一角をお借りして、館山城跡の指定を記念したパネルと遺物の展示を行いました。

また、10 月 1 日から 11 月 27 日の会期で、米沢市上杉博物館で特別展「伊達氏と上杉氏ー館山城跡国史跡指定記念ー」が開催され、それに合わせて 10 月 22 日に「ここまでわかった！国史跡館山城跡ーその実像とこれからの活用にむけてー」と題した講演会を開催しました。講師は、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館前館長佐藤鎮雄氏、山形大学名誉教授伊藤清郎氏、米沢市教育委員会文化課佐藤公保氏、文化庁文化財調査官近江俊秀氏の 4 名（発表順）をお招きし、160 名以上の方々に聴講して頂き、大盛況な会となりました。

記念展示が好評だったこともあり、特別展終了後もパネルや遺物を追加して伝国の杜のエントランスで展示を行っています。



▲エントランスでの展示風景



▲講演会風景（佐藤鎮雄氏）



▲講演会風景（近江俊秀氏）

史跡への案内板および説明板の設置

史跡への入口がわかりにくかったため、国道 121 号線に案内板を設置しました。これにより史跡へのアクセスが改善されました。また、館山城跡・東館・北館の 3ヶ所に、史跡の概要やその価値を解説した説明板を設置しました。この他、史跡への理解を深められるように、山城の各所に遺構の説明板を設置して、みどころを解説しています。



▲史跡入口の案内板

リーフレットの作成

史跡の魅力を A3 版に凝縮した無料配布用リーフレットを作成しました。案内図や縄張図も付いているので、山城散策の必需品です。市内各所の公共施設等に設置していますので、是非ともご覧下さい。



▲リーフレット



▲史跡の説明板

他団体主催講座への職員派遣

国指定史跡となったことで市民の関心も高まり、各団体主催の講座や研修会で館山城跡がテーマの依頼が増えました。今年度は文化課職員を 6 回派遣しました。

一般文化財事業

一般文化財事業では、例年どおり多岐にわたる事業を実施しています。以下では、特に重点を置いた事業について紹介します。

【国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡」(普門院庫裏)保存整備事業】

上杉治憲敬師郊迎跡は、米沢藩を復興させた「名君」として知られる上杉治憲(鷹山公)が師の細井平洲を郊迎した地として、昭和10年に国の史跡に指定されています。

本年度は、普門院庫裏工事の5年目となりました。国の補助金が予定通りにつかないため、事業計画よりも大幅に遅れが生じており、普門院の住職様や檀家の皆様にご迷惑をおかけしています。本事業のみならず全国一律の措置であるとはいえ、計画通りに事業が進まないことで所有者にはさらなる負担をお願いしなければならない事態となっており、文化財行政としても大変厳しい状況となっています。

本年度の工事は、木工事と屋根工事を中心に行い、茅屋根は80%程度まで葺き上がりました。来年度も引き続き工事を進め、屋根工事は完了する予定となっています。なお、普門院庫裏は、平成30年度中に竣工できるように工事を進めています。



11月28日保存修理見学会

本年度は、平成25年8月から文化課で整理を続けてきた『普門院所蔵資料目録』もようやく完成します。『普門院所蔵資料目録』は、普門院の保存修理事業に伴い、史跡の歴史を明らかにすることを目的として、資料の全容把握のためにまとめたものです。普門院の資料は、文書類・蔵書類・軸物類に分類・整理して目録化した結果、江戸時代中期から昭和までの最終的には5,775点が確認されました。普門院の歴史はもちろんのこと、山上地区や米沢市の新たな歴史の掘り起しが期待できる素晴らしい資料群です。

今後は、史跡の歴史を明らかにするとともに、保存修理完了後の資料の活用についても検討していきます。



▲普門院の古文書類①



▲普門院の古文書類②

【国指定史跡「米沢藩主上杉家墓所」危険木伐採事業】

米沢藩主上杉家墓所の境内は、杉木が約900本植生されており、史跡の景観に大きく寄与しています。ところが、平成27年6月に史跡内で突風の影響によるとみられる倒木があったため、樹木の確認調査を実施したところ、約200本が倒木等の懸念される危険木であることが判明しました。

来跡者の安全確保や史跡の保護、隣接する民家への影響を考慮し、平成28・29年度の2ヶ年計画で危険木の伐採と枝払いを実施することになりました。今年度は、史跡内の南側約100本の伐採を行いました。

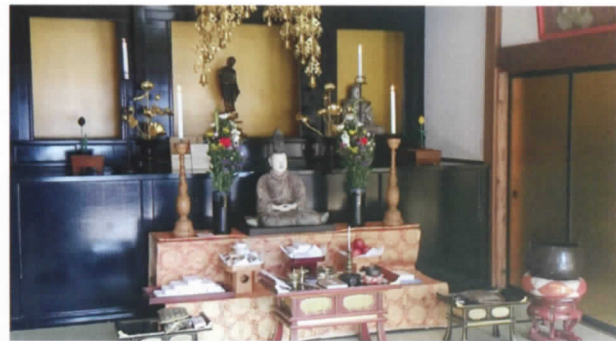


▲伐採前の安全祈願祭

【県指定文化財「木造伝長井時広夫妻坐像」保存修理事業】

万世町堂森の善光寺が所有する木造伝長井時広夫妻坐像は、き損が進み早急に修理を行う必要がありました。このたび、平成28・29年度の2ヶ年計画で1体ずつ保存修理を実施できることとなりました。

今年度は、夫の時広像の修理を行いました。平成29年2月14日に修理を終えて、関係者で開眼供養を執り行いました。来年度は夫人像の保存修理を実施する予定となっています。



▲保存修理を終えた伝長井時広像

【上杉神社重要文化財服飾類調査】

上杉神社では、上杉家ゆかりの文化財を数多く大切に守り、公開してきました。これらの文化財のうち、平成27年度から文化庁の伊東哲夫文化財調査官による国指定重要文化財である伝上杉謙信・景勝所用の服飾類の調査が行われています。今年度は6月と10月の2回、服飾類の状態を1点1点丁寧に確認調査し、修理が必要かどうかの判別を進めました。来年度も調査を継続する予定です。



▲伊東調査官の調査風景

上記の他にも例年通り、市指定史跡「直江石堤」「戸塚山古墳群」の草刈・雑木除去や国指定史跡への管理補助事業、県指定無形民俗文化財「梓山獅子踊り」への補助事業を行っています。また、文化財指定候補の調査なども実施し、「八幡塚古墳」と「龍師火帝の碑」の2件を市指定文化財とするため、米沢市文化財保護審議会へ諮問を行いました。今後とも、文化財保護へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

《第5回 文化財事業特集：米工生による^{ほうせんまちなんぶてい}芳泉町南部邸記録保存調査》

特集では、米沢市文化財保護審議会会長で山形県立米沢工業高等学校の白石信也教諭と、米工生12名が課題研究で取り組んだ芳泉町南部邸の記録保存調査についてご紹介します。

芳泉町南部邸について

芳泉町は、米沢藩では原方衆とよばれる半士半農の下級武士の居住していた地域で、江戸時代からの歴史をもつウコギ垣根と茅葺屋根の建物・歴史的な町割りの残る美しいまちなみが評価され、山形県の「未来に伝える山形の宝」にも登録されている場所です。かつては茅葺屋根の屋敷が軒を連ね、歴史的な景観を色濃く残していました。しかし、近年は生活様式の変化によって、茅葺屋根の屋敷は急速に姿を消しつつあり、現在ではわずか数軒しか残っていません。

南部邸は、芳泉町の中でも象徴的な茅葺屋根の建物の一つであり、歴史的な景観を良好に伝える建物です。



▲南部邸全景

記録保存調査への経緯

平成28年6月はじめ、文化課では、白石教諭より芳泉町の南部邸解体の情報があるとの連絡を受け、芳泉町関係者より情報収集を行い、その結果、南部邸は解体される方向で進んでいることがわかりました。

芳泉町の象徴的な歴史的建造物の一つである南部邸の解体については、茅屋根や建物全体の老朽化のため、やむを得ない面はあるものの、芳泉町を代表する建物でもあることから、白石教諭より米沢工業高校3年生の生徒たちの課題研究という授業で記録保存調査ができるかもしれないとの提案をいただきました。文化課が仲介して所有者である香坂和子さんにご連絡をとり、南部邸の記録保存調査についてご快諾を得られたので、白石教諭と米工生に調査を実施していただくことになりました。

米工生による記録保存調査

南部邸の記録保存調査は、白石教諭の他に那須学教諭を加えた教員2名のもと、米沢工業高校建築環境類建築コース3年生の生徒たち12名の体制で実施することになりました。調査は、白石教諭による事前調査が平成28年7月と8月に行われ、本調査は9月8日と21日の2日間にわたって行われました。この2日間以外にも生徒たちは、自主的に何度も現場へと通って現地調査をしたそうです。



調査では建物内部・外部の写真撮影、そこから野帳を作成した上で建物の実測調査、CADで建物の平面図・立面図の作成を行い、これらを基にした南部邸の建物記録の図面・写真を報告書、DVDデータにまとめていただきました。12名で建物の担当場所を決め、全員で協力しながら製作したといえます。なお、この調査には、休憩場所の提供など地元の芳泉町町内会にも全面的に調査に協力していただきました。

南部邸記録保存調査報告書贈呈式

平成28年12月15日、今回の記録保存調査を行った米工生の代表から、所有者である香坂暁彦さん・和子さんご夫妻、芳泉町町内会、市文化課に調査報告書が贈呈されました。報告書は、市立米沢図書館にも寄贈いただいたので、図書館でも閲覧することができます。当日は多くの報道陣に取材をしていただき、大きなニュースとなりました。



▲報告書贈呈式

当日は白石教諭の趣旨説明の後、米工生の代表者である菅野さんより報告書とDVDが手渡されました。所有者である香坂さんからはお礼の言葉をいただきました。



山形新聞 2016.12/15

今回の米工生の課題研究を通じて

平成29年2月3日、米沢工業高校の課題研究発表会が開催されました。文化課職員もお招きいただき、今回の課題研究の発表をお聞きしました。大河ドラマ「天地人」のテーマ曲にのせて、12名全員で課題研究の成果を発表されていて、地域や行政と連携して取り組んだ大変優れた研究であり、この取り組みに少しでも関わったことを誇らしく思いました。

米工生によるこの取り組みは、私たちにとっても現在、急速に姿を消しつつある歴史的建造物の保存のあり方について考えさせられる機会となりました。南部邸は、白石教諭の提案と地元の高校生たちの取り組みに、大切に南部邸を守ってきた香坂さんのご理解が得られ、さらに地元の芳泉町町内会と連携できたことで、建物そのものを残すことは難しいものの、記録保存という形ですが、後世へと伝えることができました。一方で、このようなケースは少なく、文化財指定を受けていない所有者では管理しきれない歴史的建造物を取り壊されることが多くなっているのが現状です。今回の取り組みをきっかけに所有者・地域と関ったことで、歴史的建造物を管理する所有者の方々のご苦労は大変なものであり、個人で歴史的建造物を管理していくには限界があることがよくわかりました。

米工生による記録保存調査によって、所有者の香坂さんはもうしばらくの間、南部邸の解体を延期する意向を示してくださいました。大変な決断であったと思います。米工生の取り組みを目の当たりにし、歴史的建造物に対する私たちの行政職員としての役割や、何ができるのかについても考えていかなければならないと強く感じました。

平成 28 年度 米沢市文化財関係事業

区 分	平成 28 年度の重点事項	平成 28 年度の主な事業報告
1. 文化財共通	<ul style="list-style-type: none"> ○事業の記録 ○文化財に関する諮問機関の開催 ○文化財行政推進大会への参加 ○文化財の普及・教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・「米沢市文化財年報」No.29の発行 ・平成28年度米沢市文化財保護審議会の開催 (第1回H28.7.21 第2回H29.3.23) ・全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会総会への参加 (宮城県名取市) ・山形県史跡整備市町村協議会への参加(遊佐町) ・埋蔵文化財資料室・史跡等の見学対応、出前講座、米沢 チャレンジウィークの受け入れ
2. 埋蔵文化財	<ul style="list-style-type: none"> ○埋蔵文化財の調査 ○埋蔵文化財の情報収集及び周知 ○報告書の作成 ○埋蔵文化財の保存・活用・普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅川最終処分場整備事業に係る「大南遺跡」緊急発掘調査 受託事業(3ヶ年事業の1年目) ・市内遺跡発掘調査事業 市指定史跡「戸塚山古墳群」測量調査(M199号墳ほか) ・「威徳寺東遺跡」・「野際遺跡」の緊急発掘調査 ・開発事業に際する事前協議及び埋蔵文化財包蔵地等にお ける土木事業前の試掘・確認調査 ・「道の駅よねざわ」の開発に係る調整 ・米沢市埋蔵文化財調査報告書第111・112集の刊行 ・米沢市埋蔵文化財資料室の維持管理(屋根防水改修工事) ・国指定史跡「館山城跡」保存整備事業 米沢市上杉博物館での展示・講演会、説明板・案内板設 置、リーフレットの発行 ・「館山城跡」ガイドブックの販売
3. 一般文化財	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財の調査 ○文化財の保護 ○指定文化財保存管理の充実 ○指定文化財環境整備の促進 ○無形民俗文化財後継者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財及び指定文化財の調査(木造伝大日如来坐像・龍師 火帝の碑・八幡塚古墳等) ・上杉神社文化財の調査 ・文化財巡回指導(国・県指定文化財) ・国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡」保存修理事業の継続 (9年目、普門院庫裏の5年目) ・上杉治憲敬師郊迎跡保存整備検討委員会開催 ・国指定史跡「米沢藩主上杉家墓所」危険木伐採事業 (2ヶ年事業の1年目) ・県指定文化財「木造伝長井時広夫妻坐像」保存修理事業 (2ヶ年事業の1年目) ・国指定特別天然記念物「カモシカ」の保護 ・市指定天然記念物「ホタル」及び同「吾妻の白猿」の保護 調査 ・文化財防火デー(善光寺) ・県指定天然記念物「山上の大クワ」の管理 ・国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡(普門院・羽黒神社)」 及び同「米沢藩主上杉家墓所」の管理等に係る補助 ・県指定天然記念物「長町裏のエゾエノキ」に係る補助 ・国指定史跡「一ノ坂遺跡」・「館山城跡」及び市指定史跡 「戸塚山古墳群」、同「谷地河原堤防(直江石堤)」の環 境整備(草刈・雑木除去等の実施) ・県指定無形民俗文化財「梓山獅子踊」保存会への補助

発行 米沢市教育委員会

〒992-0012 米沢市金池三丁目1番14号

教育管理部 文化課 文化財担当

TEL 0238-22-5111 (内線7530・7531)

FAX 0238-21-6020